

平成26年度学長裁量経費研究推進支援プロジェクト研究成果報告書

1. 研究の概要

プロジェクト名	英語教育に関するCBI（内容重視の言語教育）に関する研究		
プロジェクト期間	平成26年4月～平成27年3月		
申請代表者 （所属講座等）	宮迫靖静	共同研究者 （所属講座等）	なし
取組方法・取組実績の概要	<p>計画に基づき、平成26年度前・後期に、英語教育概論・英語科教育研究Aを内容重視型授業（Content-Based Instruction: CBI）として実施し、前期では質問紙法（6段階リカート法81項目）により、CBIに関する認識・英語学習に対する動機づけを調査し、学習者（$n=70$）の内容理解・英語能力・職業志望等も調査した。</p> <p>分析に関しては、平成25年度後期におけるCBIの試行分から始め、現在本年度分の分析を実施中である。</p> <p>平成25年度分に関しては、2件の口頭発表を行い、2編の論文が審査中である。下記のとおり、英語教育に関するCBIは、継続・拡充すべきであろう。尚、平成26年度分に関しても、同様に、口頭発表・論文投稿をする予定である。</p>		
研究成果の概要	<p>現時点では、前年度試行分に関して、次のような成果が示されている。</p> <p>① CBIに対する評価：CBIによる授業を受けた学生が認識したCBIの長所は、科目内容理解に効果的であり、やりがいがあり、英語使用が多いという点である。短所は、教師・学生間及び学生間のやりとりが十分でない点であった。</p> <p>② CBIの認識に関する因子：探究的分析により、CBIによる授業に対する認識に関する3因子（効果的、好意的、英語使用）を抽出した。</p> <p>③ CBIの認識への影響：(a) 内容理解の高い参加者の方が、CBIの授業において効果や英語使用を認め、好意的である、(b) 英語能力が高い参加者の方が、CBIの授業に好印象をもったが、CBIの授業における効果や英語使用に関する認識には違いはない、(c) 英語教員志望か否かは、CBIの授業に関する3因子に影響を及ぼさない、の3点が示された。</p> <p>④ 英語学習の動機付けとの関係：(a) 英語学習に対する動機付けは「理想自己（ideal L2 self）」・「英語学習に対する態度（attitudes to learning English）」が中心となり、CBIに関する認識の30%の分散を説明する、(b) 英語能力・内容理解と関係がある英語学習に対する動機付けに関しては、肯定的な「理想自己」・「接近的用具性（promotion-focused instrumentality）」と否定的な義務自己（ought-to L2 self）・回避的用具性（prevention-focused instrumentality）と関係があることが示された。</p>		
外部資金獲得申請及び研究成果の公表方法等について〔 <input type="checkbox"/> （該当事項）にチェック願います。〕			
外部資金獲得申請（予定）	<input checked="" type="checkbox"/> 科学研究費補助金 <input type="checkbox"/> 受託研究費 <input type="checkbox"/> その他 ()	研究成果の公表方法（予定）	<input checked="" type="checkbox"/> 学会（国内・国外）： <input checked="" type="checkbox"/> 新聞・図書・雑誌論文等： <input type="checkbox"/> その他：